

ゆめ わらわ 夢 臺

菅波 茂

今月26日と27日に、ベトナムのホーチミン市にある175軍病院の副院長(大佐・麻酔科医)をリーダーとした医療および介護視察団が、岡山では社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会(岩本一寿支部長)、医療法人渡辺医院老人保健施設「ゆめの里」(渡辺清一郎理事長)、そしてベトナムでも心臓手術で有名な佐野俊二岡山大学病院心臓血管外科教授を訪問予定である。

平均寿命が72歳の社会である。最先端の介護対策を実施している岡山済生会グループおよびゆめの里の両者を参考にし、ベトナムにおける老人介護のモデル形成の具現化をしていただきたい。

ベトナム175軍病院との連携

ベトナムでのAMD A初のプロジェクトとなった1996年メコン川洪水緊急医療救援。以降さまざまな事業を実施した



ベトナムでのAMD A初のプロジェクトとなった1996年メコン川洪水緊急医療救援。以降さまざまな事業を実施した

これは大歓迎とのこと。また、少数民族に対する定期的巡回診療にも招待していただいた。ちなみに、175病院は敷地23畝、ベッド数1200、医師300人以上、看護師400人以上、総医療スタッフ約1000人という規模である。ハノイ市にある103病院と108病院を加えて国防省管轄の3大病院である。年内に、175病院、岡山済生会グループとAMD Aの三者間の包括協定を予定している。

が印象的だった。175病院長(少将・外科医)の期待は次の3点である。①医療技術交流②介護交流③若い世代交流。私は4番目として、「災害医療支援」の追加をお願いした。国防省の直轄なので海外派遣はまだ無理だが、ベトナム国内災害に関してはAMD Aが先導であるから。AMD A

175病院は軍病院であるからベトナム戦争の経験がある。ベトナム戦争の後遺症である枯れ葉の悪影響にも気づき始めている。

ベトナムは本当に親日的である。「ルック! ジャパン」を超えた「共ニ! ジャパン」である。175病院長も人材育成などのシステムについて日本式が希望である。日本企業も中国からベトナムなど東南アジアの親日的な国々に回帰している。

※GPSPII Global Partner
ship for Sustainable
Peace 世界平和パートナーシップ